

インドパビリオン (バーラト)

～ コンセプトとデザイン、及びその文化的意義 ～



地域交流
万博特集

インド 文化省、商工省*

India Pavilion (Bharat)

— Concept, design and its cultural significance —

Key Words : Connecting Lives, Harmony of Science, India's Diversity,
Desire for Sustainable Development

Summary

The Indian Pavilion "Bharat" at the 2025 Osaka Expo will welcome visitors with a variety of exhibits that combine India's traditions and vision for the future under the theme of "Connecting Lives". At the entrance, a "charkha", a spinning wheel that symbolizes India's independence and peace, and a monument of hands together praying to say "Namaste", a traditional greeting, will be placed, conveying a sense of respect and connection to visitors.

At the center of the pavilion, a design featuring a blue lotus flower and Padmapani, the symbol of compassion-expresses purity of heart, growth and change. Visitors will have an immersive cultural experience that makes them feel as if they are in India, and the Lotus Courtyard will feature a tranquil display of replicas of 2,000-year-old Ajanta Caves frescoes.

In addition, a stream running through the pavilion symbolizes the philosophy of "coexistence" and represents both personal growth and the overcoming of difficulties. It showcases the harmony of science, technology and culture, showcasing the health of mind and body through traditional medicine and yoga, as well as advancements in space exploration. The ODOP Zone showcases local craftsmanship, the Innovative Zone allows visitors to experience the creation of a future society through digital technology, and the Multipurpose Hall is a venue for lively international exchange and cultural events.

Expressing India's diversity and unity, and with a wish for sustainable development and peace, "Bharat" vividly depicts the India of the future where tradition and innovation, nature and technology coexist in harmony.

インドの自立と平和の象徴である手紡ぎ糸の輪「チャルカ」が玄関に展示されています。伝統と未来をつなぐ象徴です。入口には「チャルカ」とともに、両手を合わせたこんにちは（ナマステ）の挨拶を表す「合掌」のモニュメントも設置されています。こ

れはインドの伝統的な挨拶を表し、敬意とつながりの心を象徴しています。

1. インドパビリオンのテーマと理念

2025年大阪万博のインドパビリオン『バーラト』は、「いのちをつなぐ」というテーマのもと、人と人との絆や文化の交流を大切に展示を行っています。誰もが参加できる開かれた空間として、持続可能で希望あふれる未来を目指すインドの考え方を表しています。パビリオンのデザインは、インドの豊かな伝統や古くから伝わる知恵にインスピレーションを得てつくられています。



* インド 文化省、商工省

Indira Gandhi National Center for Arts
India Trade Promotion Organization



手紡ぎ糸の輪「チャルカ」



インドの挨拶「ナマステ」



パドマパニ菩薩



パビリオンの入り口



青い蓮の花

パドマパニ菩薩の象徴的意義

パドマパニ菩薩は、人々を助け導く慈しみと知恵の象徴として、インドの美術でよく見られる存在です。2,000年前のアジャンター洞窟のフレスコ画が代表的な例です。

中心にある青い蓮の花は、パドマパニ菩薩を象徴するとともに、心の清らかさや成長、変化の意味を持っています。

2. パビリオンのデザインと体験

インドパビリオンは、訪問者がまるで現地にいるか



青い蓮の華のファサード

のように文化を感じられる、臨場感あふれるつくりになっています。

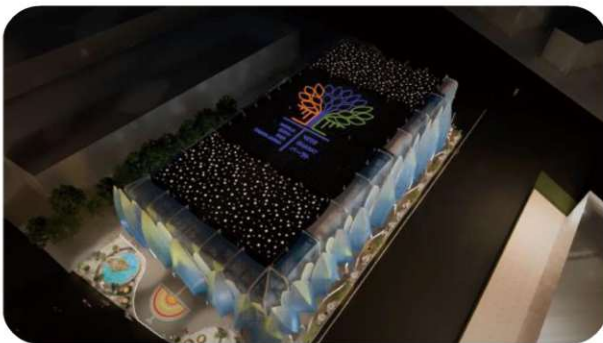
物語のような演出と、実際に体験できる仕掛けが一体となった空間で、文化の交流を促し、世界とのつながりを感じられます。パドマパニは、悟りの直前にある菩薩で、蓮の花と深い慈しみを象徴します。このイメージをもとにした建築は、人々に寛容さや学びの心、変化への気づきを与える場となっています。

3. ロータス・コートヤードの展示

時を超えたつながりへの扉

ロータス・コートヤードは、アジャンター洞窟のフレスコ画の複製を展示する静謐な空間です。パビリオンの印象的な外観デザインと館内との間にあるロータス・コートヤードには、二千年の歴史を持つユネスコの世界遺産、アジャンター洞窟のフレスコ画の複製と、厳選した菩薩像のコレクションが展示されています。

世界中の人々が気軽に入り、インドの文化やメッセ



古代インドの芸術と精神遺産を称賛するエリア

ージを感じ取れるような象徴的な入口が用意されています。

4. ワンネス・ラウンジの理念

ワンネス・ラウンジ

『いのちをつなぐ』ゾーンにあるインドパビリオン『バーラト』は、すべての来場者を『ワンネス・ラウンジ』へと迎え入れます。この空間は、人と人とのつながり、豊かな文化、そして最先端の技術を象徴するように作られており、まるでその中に引き込まれるような体験ができます。ラウンジの中心には、抽象的に表現され、デザイン化された菩提樹が据えられ、全体のデザインの核となっています。

中央には菩提樹をかたどったオブジェが置かれ、いのちの源や豊かさを象徴しています。



菩提樹
(イメージ)



旅する水の象徴的意義

パビリオン内を流れる小川は、インドの哲学で大切にされる『共生』の考えを表していて、来場者をや

さしく導きます。この水の流れは、成長や変化に適応する力を象徴し、インドの伝統的な文化と現代の新しい技術をつなげています。

インドパビリオン『バーラト』では、水はただの生活の道具ではなく、自然の力として大切にされ、敬われています。パビリオン内を流れる小川は、菩提樹のもとから始まり、水が進む旅を通して、私たちの人生を表しています。水が障害を乗り越えて進むように、人も困難を乗り越えながら成長していきます。この流れは、回復する力やあきらめずに努力す

ることの大切さを伝えているのです

5. ヘリテージゾーンの展示

ヘリテージゾーンでは、ユネスコの世界遺産を紹介することで、インドの豊かな遺産を賞賛し、また臨場感あふれるプレゼンテーションで観光と世界的な知名度の向上を目指します。ビジュアルアートの展示はナラティブ（物語）を豊かに、そしてバーラトの文化遺産を現代的に表現しています。



インドの豊かな遺産

伝統的な芸術形態の保護

ODOP ゾーンでは、地域のユニークな製品や職人技を紹介し、文化の多様性を称賛します。このゾーンは、インド政府がすすめる『1地区1製品(ODOP)』の考え方に基づいています。インドの各地域が持つ独特な製品や職人の技を紹介し、人々の創意工夫や文化の多様さ、伝統的な民族や部族の習慣をたたえています。ODOP は、伝統的な芸術や技術を守り

育てるとともに、職人の支援や地域の経済を活性化することを目的としています。これにより、技術がただ記録されるだけでなく、次の世代へしっかりと受け継がれていくのです。こうした取り組みは、地域の経済の持続可能な発展を促し応援するものです。この展示は、急速に変わるインドの中でも、これらの伝統が今も大切にされ続けていることを示しています。



地域経済を強化



伝統的なインドの織物

インドの成長物語の展示

インドの偉業を讃えるテーマ別の展示が行われ、宇宙探査やインフラ整備が紹介されます。インドの宇宙開発は、発見・創造・回復力の精神を体現し、未踏の宇宙へ挑戦し続けています。インド宇宙研究機関 (ISRO) は、効率的かつ革新的なアプローチで、科学と技術の限界を押し広げ、地上の生活をより良くすることを目指しています。パピリオンでは、小川の流れに沿って地下資源、インフラ整備、宇宙探査、伝統医療などをテーマに展示。ISRO の実績を紹介し、未来世代への希望とインスピレーションを届けます。

ISRO の宇宙開発計画

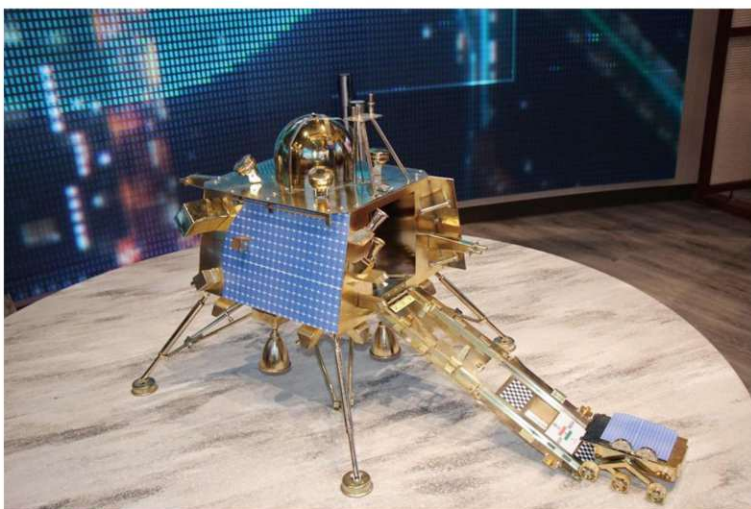
インドパピリオンの「生命の壁」は、ヨガやアーユルヴェーダなどの伝統療法を通じて、心と体の内面的な健康＝ウェルビーイングに焦点を当てています。これはアユース省 (AYUSH) の支援によるもので、全ての生命の調和と幸福を目指しています。また、鉄道や橋といったインフラの展示は、現代インドの発展を象徴しており、社会・経済の基盤としての役割を強調しています。さらに、宇宙開発を担う ISRO の展示では、チャンドラヤーン (月探査) やマンガルヤーン (火星探査) などの成果を紹介。科学技術を通じて若者に夢と未来への希望を与え、持続可能で安全な社会づくりへの貢献を伝えています。

イノベティブバーラトゾーンの目的

このゾーンを中心テーマは、すべての人がテクノロジーを使いやすく、手頃に利用できるようにすることです。インドは過去10年でデジタルインフラを大きく発展させ、情報へのアクセスを広げ、国民がデジタル技術を使いこなす力を高めてきました。これにより、誰もが技術革新に参加できる土壌が生まれ、知識とイノベーションが社会全体に広がっています。ゾーン内では、再生可能エネルギーやスマート技術など未来に向けたテーマを、デジタル・ストーリーテリングや対話型展示で紹介。砂を使ったアートテーブルなど、創造性あふれる表現を通じて、技術と芸術が融合した体験を楽しめます。デジタル技術と科学技術の進歩を通じて、地域社会に活力を与え、情報格差を解消することを目指しています。



対話型展示



月面探査機 (チャンドラヤーン) 実寸



鉄道や橋のインフラの展示



グローバルなステークホルダーを呼び込む環境を整備

コーポレートゾーンの役割

インドのビジネスの可能性を紹介し、企業の革新や成果を世界に発信する場を提供します。コーポレートゾーンは、インドの経済成長を支える企業の力を紹介する場です。企業の革新や成果を展示し、世界の来場者にアピールします。ここでは、国際的な連携や投資を促す環境が整えられており、インド企業の実力や成功事例を知ることによって、新たなビジネスの可能性が広がります。

各州ゾーンの特徴

各州ゾーンは、インド各州が文化・経済・政策などの発展を紹介する活気あふれる舞台です。州ごとに順番に参加し、多様な表現を通じて「多様性の中の一体性」というインドの特徴を伝えています。ゾーン内には没入型のデジタルディスプレイや伝統工芸品の展示があり、訪れる人々に各地の魅力を体感してもらえます。また、多目的ホール（最大60名収容）は、講演会、映画上映、ワークショップ、ヨガセッ

ションなど様々な用途に対応。ホールは3つの形式（オーディトリウム、ワークショップスペース、ラウンドテーブル）に柔軟に変更でき、高度な音響・照明設備と控室も完備しています。このホールでは、各州が観光の魅力や政策、革新事例を紹介し、国際的な聴衆に向けて投資やコンサルティングの機会を提供するネットワーキングの場ともなっています。

多目的ホール

多目的ホールは最大60名を収容できる現代的で柔軟なイベント空間です。記者会見や映画上映、パネルディスカッション、ヨガ、ワークショップなど幅広い用途に対応可能です。ホールは3つの形式（オーディトリウム、ワークショップスペース、ラウンドテーブル）に自在に変更でき、講演や討論、共同作業に最適な環境を提供します。控室や高性能な音響・照明設備も整い、あらゆるイベントに対応する本格的な施設です。多彩なイベントを開催できるモダンなホールで、さまざまな用途に対応します。



インドの各州が文化や経済の発展物語を紹介するダイナミックな舞台

6. おわりに

2025年大阪万博のインドパビリオン「バーラト」は、「いのちをつなぐ」をテーマに、インドの伝統と未来を融合した多彩な展示で来場者を迎えます。玄関には、インドの自立と平和の象徴である糸つむぎ輪「チャルカ」と、伝統的な挨拶「ナマステ」を表す合掌のモニュメントが置かれ、訪れる人々に敬意とつながりの心を伝えます。

パビリオンの中心には、青い蓮の花と慈悲の象徴パドマパニ菩薩をイメージしたデザインが配され、心の清らかさや成長、変化を象徴。来場者はまるでインドにいるかのような臨場感あふれる文化体験ができ、ロータス・コートヤードには2000年前のアジヤンター洞窟のフレスコ画の複製が静謐に展示されています。

また、パビリオン内を流れる小川は「共生」の哲学を象徴し、人生の成長と困難の乗り越えを表現。伝統医療やヨガを通じた心身の健康、宇宙探査の最前線を紹介し、科学技術と文化の調和を示します。地域の職人技を紹介する ODOP ゾーンや、デジタル技術による未来社会の創造を体験できるイノベーションゾーン、多目的ホールでは国際交流や文化イベントも活発に行われます。

インドの多様性と一体性を表現し、持続可能な発展と平和への願いを込めた「バーラト」は、伝統と革新、自然と技術が調和する未来のインドを鮮やかに描き出しています。

※参考文献 鳥の図鑑

<http://torinozukan.net/indokujaku.php>



インド国鳥孔雀

